



直感と読みを楽しむ囲碁が大好き



女子団体戦で全国選拔出場

左から

- 野倉 みゆきさん・17歳 堤町
- 品川 りえさん・17歳 川端町
- 神保 美由紀さん・17歳 日吉町四丁目

全国高校囲碁連盟が主催する第23回関東地区高校囲碁選手権女子団体戦で前橋育英高が初優勝。全国選抜の出場権を得た。

「変則のリーグ戦4試合を行い、3校が3勝1敗で並んだんです。大会の規定によって優勝しましたが、実感がありませんでした。でも今になって、うれしさがわいてきています」(野倉さん)

山梨県代表との初戦は、緊張のせいかミスを連発し、一番苦しかったという。しかし、3人が互いに助け合って、気持ちを一つにし、優勝をつかんだ。

「囲碁は、制限時間内で相手はどう打ってくるか、直感と読みが大切で、それを繰り返すゲームです。頭を使って競うところがおもしろくて

大好きです」(神保さん)

囲碁将棋部に所属する女子はこの3人のみ。大会前になると、毎日放課後3時間の練習を行っている。

「父の影響もあり、以前から囲碁には興味があったんです。漫画もはやったこともあって、みんな高校から一緒に始めました」(品川さん)

本格的に囲碁を始め、まだ日は浅いが、輝く瞳で見つめられると、自分の心が読まれてる感じがする。

「3月に大阪で全国選抜が行われるんです。レベルが高いと思うので、ミスしないように、まずは1勝を目指したい」と意気込む3人。

全国の舞台で、持ち前のチームワークの良さで集中力で悔いのない戦いをし、いい思い出をたくさん作ってきてほしい。

両市民が心を一つにミュージカル

前橋・高崎市民ミュージカル「フェアリー」が2月3日、群馬音楽センターで行われました。オーディションで選ばれた両市民113人が、昨年11月から夜遅くまでけいこを重ねて仕上げた晴れ舞台。元宝塚歌劇団の2人を迎え、美しく華麗な名作を熱演しました。1,800人の観衆から割れんばかりの拍手が送られ、感動のフィナーレに。



若い芽のポエム

昨年度行われた第10回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

★入選 てわたりぼう

額小1年 田中 莉奈さん

いたい。
てのひらが
おっぱいみたいになっちゃった。
てわたりぼうを
やりすぎて
かじったあとみたい。

とびこえたさきに、何か待っている。
そうだ。
みんなおうえんしてくれている。
でも
ハードルは見た感じとても高そう
で、
こわいんだよね。
でも、ハードルをじっと見ている
と、
私にそっと「がんばって。」
「きつととべるよ。」とんでみてよ。」
と、
小さな、ちいさな声が、うっすらと、
きこえてきた。
なんだか、ゆう気づけられた。
よしっ。こうなったらとぶぞ。
私は、心の中でそうさげんだとた
ん、
ハードルがこっちを向いてニコニコ
笑った。
なんだか、とべそうな気がした。
とべた。
何も何もたおしたけどとべた。
そうだこれは、ハードルのおかげ
だ。
私は心の中でハードルに感しやし
た。

★入選 ハードル

城東小4年 関本 ちひろさん

今日の2時間目は、ハードルだった。
そういえば、私はハードルが一番に
がて。
3年生の時ころんでしまってたこわ
くなって。

笑顔で書き初め展を鑑賞

1月25日から28日まで、前橋プラザ元氣21で書き初め作品展を開催。市内小中学生の力作600点がずらりと並びました。自分や友達の作品を見つけると、みんなにっこり嬉しそう。作品の前で記念撮影をする姿もうかがえます。4日間の来場者は2,200人。多くの家族連れでにぎわいました。



音の仕組み知る楽器製作

科学工作スクールを2月2日と9日の2日間、児童文化センターで開催。エレキギターの製作を通じて音の出る仕組みを学びます。参加した小学生はノコギリやドライバーなどの工具を使い分け、思い思いのギターを作成。自分で作り上げた楽器がきちんと音を奏でると、うれしさと驚きで、みんな感激していました。